No69　平成 31 年新年号

道　南

北海道道南会会報
No69　平成 31 年新年号
発　行　2019 年 1 月 1 日
発行所　北海道道南会事務局
連絡所　茨城県取手市西 1-6-C-907
TEL&FAX　0297-74-7576
ホームページ
http://hokkaido-dounankai.com/

函館市と取手市との縁

北海道道南会会長　薬袋　泰

新年明けまして
おめでとうございます

皆様お変わりなく元気に健やかに、新しい亥年の新春をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

さて、全国各地で地震や水害などによる大災害が続いている中、9月6日北海道南西部の胆振地方を震源とする地震「平成30年（18年）北海道胆振東部地震」があり、厚真町で震度7が観測された。地震の規模を示すマグニチュードは6・7と推定され、2016年4月の熊本地震以来で6回目。北海道では観測史上初めてで、厚真町では大規模な土砂崩れが起きるなどし、安平町、むかわ町、厚真町では家屋の倒壊や道路の陥没などで多くの被害が出ており、また、札幌市他では地盤の液状化現象による地盤沈下で道路の陥没、水道管の破裂、家屋が傾くなどの大きな被害が見られました。

地震の影響で道内全ての火力発電所が停止し、道内のほぼ全世帯が一時停電しました。空港や交通機関、医療機関、ホテルなどの観光施設などが大きな影響を受けるなど、電力や水道の供給が広範な地域で停止し、交通網が寸断され自然災害に対するインフラの脆弱さが浮き彫りになったように思われます。

被災地の早期復旧・復興と観光北海道・道南の早い回復をお祈りいたします。

私の住んでいる茨城県取手市と函館市の関わりについて紹介致します。取手市が月2回発行する「広報とりで」に「ふるさと探訪」と言う欄がありますが、そこに広瀬誠一郎と人見寧・勝海舟について掲載されました記事を紹介します。

利根運河は、現在では運河としての役目は終わっていますが、千葉県柏市・野田市・流山市を流れ、利根川と江戸川を結び、産業や経済の発展に貢献しました。利根運河開削の中心になったのが、下高井の広瀬誠一郎です。広瀬は、明治20（1887）年に利根運河会社を設立し、社長に人見寧が就任しました。人見は元茨城県令（現在の県知事）で、同時期に広瀬は県会議員や北相馬郡長を務めていました。元幕臣の人見は、慶応4（1868）年の鳥羽伏見の戦いでは旧幕府軍として戦い、最後は箱館五稜郭に立てこもり、新政府軍と戦いました。後に許され、大久保利通の勧めで内務省に勤務します。人見は、明治13年に茨城県令となり、以後5年4ヵ月にわたって県政を担い、多くの業績を残しました。

人見寧

ところで広瀬家には、勝海舟の書が伝わっています。この書は、明治20年初春に広瀬氏の嘱（頼み）で書いたとの勝の為書があります。

勝の日記によると、明治20年2月18日に人見ともう一人の人物が勝を訪ねています。

この人物が、広瀬と考えられます。江戸城無血開城の立役者の勝と、最後まで新政府軍と戦った人見とは、身の処し方は異なりましたが、相通じるものがあったのでしょう。人見は、勝を終生師と仰ぎました。利根運河開削の事業にあたり、人見は広瀬を伴って勝を訪ね、助力や助言を求めたと思われます。人見を介した広瀬と勝の出会いに、歴史の余薫が感じられます。（資料は取手市埋蔵文化材センター）

箱館奉行所

道南会の総会・懇親会は2月2日（土）ホテル・ラングウッドで開催されます。多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。

函館市便り

函館市長　工藤　壽樹

新年明けましておめでとうございます。

平成31年の新春を皆様とともにお迎えできますことを心よりお喜び申し上げます。

貴会におかれましては、昭和35年の創立以来、半世紀を超える長きにわたり、「ふるさと道南」を心の絆として会員相互の交流と親睦を深め、固い結束のもと、幅広い分野において活発な活動と郷土発展への貢献を続けられ、今日のご隆盛を築かれておりますことは、薬袋会長をはじめ歴代会長、役員、会員の皆様の一方ならぬご努力の賜と存じ、心から敬意を表します。

本年は、30年余り続いた平成から新元号への改元が行われます。平成を振り返りますと、当市においては、平成16年に5市町村が合併したことにより、新たな函館市がスタートしたほか、平成28年には待望の北海道新幹線が開業し、第二の開港ともいうべき大きな転換期となりました。

現在は、「ポスト新幹線時代」のまちづくりとして、今ある資源をさらに磨き上げ、まちの魅力を一層高める取組みとして、「ガーデンシティ函館」の実現、「食の産業化」の推進、「フェスティバルタウン」の形成、陸・海・空の交通の有機的な活用を重点的に進めています。

昨年を振り返りますと、8月25～26日の2日間には、緑の島特設ステージにおいて地元出身のロックバンドGLAYによる5年ぶりとなる凱旋野外ライブが行われ、2日間で延べ約5万人のファンで会場が盛り上がりました。

また、8月には海外からの観光客に新たな夜間観光を提案し、市民と外国人観光客に函館の良さを感じてもらう初の実証実験として「はこだて夜祭り」を開催しました。浴衣姿で盆踊りや金魚すくいといった日本の文化体験を、地域住民と外国人観光客が楽しめる内容となっており、3日間で5、800人の方が来場しました。

はこだて夜祭り

9月の北海道胆振東部地震では、皆様には、大変ご心配をおかけしたことと思います。地震直後には、風評被害の影響で、宿泊施設のキャンセルなどが相次いだため、台湾への訪問団派遣や中国インフルエンサーによるライブ配信、観光動画「函館営業中！」の制作、拡散などの緊急対策をいたしました。現在も「北海道ふっこう割」のPRなどにより、さらに観光客が回復するよう精力的に取り組んでいるところでございます。

また、9月下旬に東京都自由が丘駅近くのローソン世田谷奥沢五丁目店内に函館市アンテナショップ「函館もってきました。」2号店をオープンさせ、函館市の特産品であるいかをはじめとする水産加工品やスイーツ、ドリンクなどが好評を得ております。京橋駅前店内の1号店に続き、アンテナショップが2店舗となりますことで、より多くの皆様に函館を紹介できるものと大いに期待しております。どうぞ皆様もご来店いただき、懐かしい商品や新しい商品をお楽しみいただけると幸いです。

10月には、民間のシンクタンクによる地域ブランド調査におきまして、2年ぶりに魅力度ランキングが第1位に返り咲きまして、今後の観光振興施策に強力な後押しを得ることができました。

また、函館朝市にほど近い若松地区の旅客ふ頭が暫定供用を開始し、現在、4万トン級までのクルーズ客船が接岸可能となっておりますが、これが完成しますと12万トン級のクルーズ客船受入れが可能となりますほか、2022年度には、隣接地にCIQ手続きやシャトルバス利用客の待合場が備えられた、客船ターミナルの整備が予定されております。今後、こういった施設による利便性が向上しますと、観光地としての魅力が発揮され、ますますクルーズ客船の寄港が増大すると期待されるところでございます。

さらに10月6日には、地震により市民の活気が失われないよう、新企画のイベント「おいしいフェスタ」を開催し、同時に実施した「函館いか祭

函館いか祭り

り」と合わせて、5、500人の方が来場してにぎわいを見せたところでございます。

12月には、今や冬の函館を代表するイベントに成長した「はこだてクリスマスファンタジー」が行われましたほか、2月までの期間中、八幡坂や二十間坂で行われる「はこだてイルミネーション」や、いさり火を模した灯りが幻想的な「函館駅前広場イルミネーション」、約2千個の電球で彩られた五稜郭公園が星形に浮かび上がる「五稜星(ほし)の夢」など、函館の街がイルミネーションで彩られております。

また、こうしたロマンティックな冬のイベントや限定グルメメニューを一体的にPRするため、「冬に恋。函館」をキャッチフレーズとした冬季の観光客誘致を推進しております。

五稜星の夢

2月には、「函館・道南の食」の魅力が集まるグルメイベント「はこだてフードフェスタ」の開催が予定されています。昨年は、2日間で約2万人が来場されておりますが、今年も様々な催しを企画し、たくさんの方がご来場されることを期待しております。

さて、我が国においては、少子高齢化が進展し、日本の人口は平成20年(2008年)の1億2、808万人をピークとして減少に転じ、2065年には8、808万人まで減少することが見込まれています。

当市においても生まれる子どもの数が年々減少しており、また若い世代が進学や就職で札幌や首都圏に転出することなどを要因として、毎年3千人規模で人口減少が続いています。私は、人口減少を悲観的に捉えるのではなく、正面から受け止め、これを前提として物事を進めていく必要があると考えています。そして、人口減少のスピードを少しでも緩やかにし、まちの活力を維持していくことが大切です。

こうした状況の中、当市においては安心して子どもを生み育てることができる環境の整備をはじめ、子どもの貧困対策や学力の向上、IT企業を中心とした企業誘致や創業支援、若者の就労支援のほか、高齢者が健康で生きがいを持って暮らすことができる環境づくりなどに取り組んでいます。

現在、人手不足の問題は全国的に深刻化しており、今後においても、生産年齢人口がますます減少し、約10年後の2030年には、全国で約640万人の人手不足が生じると言われています。当市においても医療や介護をはじめ、宿泊や飲食、運輸、建設業など多くの分野で人手不足が生じています。人手不足を解消するためには、女性や高齢者の潜在的労働力を活用するとともに、AIやIoTなどの新技術を導入し、労働生産性を高めていくことが必要となります。労働生産性を高めることは人手不足を解消するだけではなく、収益力の強化による所得水準の向上につながり、若者の地元への定着に結びつくものと考えています。

また、国では人手不足の解消を図るため、外国人材の受け入れの拡大に向けた取り組みが進められています。当市においても、技能実習生や留学生などの外国人住民が年々増えており、外国人観光客も増加しています。

函館は、幕末の開港から明治、大正にかけて、国の内外から多くの人が集まり、開拓者精神と気概をもって、まちを発展させてきました。

今日の人口減少時代にまちの活力を高めるには、まちも人も国際化し、日本人だけではなく、多様な人々が集い、市民と交流し、ともに学び、ともに働く、多文化が共生する地域づくりが重要であると考えています。

はこだてイルミネーション

これからのまちづくりには、豊かさを人口に比例するような総量ではかる時代から、一人ひとりの充実感ではかる時代に変えていくことが必要です。私は、市民一人ひとりが元気で豊かに暮らしていけるまちづくり、そして住んでいる人も、訪れる人も、だれもがこのまちで過ごす時間を幸せに感じられるまちづくりを市民の皆様とともに進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びにあたりまして、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

はこだてクリスマスファンタジー

「七飯町便り」
～七飯町の最近の動向について～

七飯町長　中宮　安一

皆様、明けましておめでとうございます。平成31年の初春を皆様とともにお迎えできますことを心よりお慶び申し上げます。

この新しい年が皆様にとって、素晴らしい年でありますよう心からお祈り申し上げます。

北海道道南会の皆様におかれましては、昭和35年の創立以来、半世紀以上もの長きにわたり、郷土である道南を絆とし、幅広い分野で活発な活動と郷土の発展への多大なる貢献を続けられておりますことに深く敬意を表します。

貴会がこれほどの長きにわたって活動を続けられてきたことは、薬袋会長様をはじめとした歴代会長、役員並びに会員の皆様のご努力の賜物であり、そして郷土道南を思う気持ちの表れであると存じ、改めて深く敬意を表するとともに、七飯町民を代表して、これまでの活動に対し厚くお礼を申し上げます。

◆北海道胆振東部地震について

昨年9月6日に発生した北海道胆振東部地震は、北海道で初めて最大震度7を記録した地震であり、震源付近の市町村においては、建物の損壊や土砂崩れなどにより多くの方が犠牲となりました。

当町においては人的被害こそ免れましたが、全域が長時間にわたり停電となる、いわゆるブラックアウトという異例の事態を経験し、町民の方々や関係者の皆様におかれましては、大変な苦労や不便をされました。

被害に遭われた皆様に対しまして、この場をお借りし、心よりお見舞い申し上げるとともに、町としてもこの地震を教訓として「災害は必ずやってくる」ということを常に念頭に置き、避難訓練や防災訓練などを通して町民の防災意識の向上に努めるほか、安全で安心な七飯町の更なる充実に向け、防災対策を十分に取り組んでまいります。

◆道の駅「なないろ・ななえ」の開業

一方で、七飯町にとっての明るい出来事としては、昨年3月23日、「交流の場」「活動の場」「避難施設」などの機能を備えた地域の活性化施設として、道内121番目となる道の駅「なないろ・ななえ」が開業いたしました。開業に当たり支えて下さった多くの方々、ご尽力いただいた関係者の皆様並びに多大なるご協力をいただいた地権者の皆様に心から感謝申し上げます。来場者数は開業から約8カ月で年間目標の90万人をすでに突破しており、お陰様で大盛況を頂いております。

道の駅「なないろ・ななえ」

「自然豊かな周辺環境に調和する色彩計画で、かつ地域活性化につながる拠点施設として、峠下地区の新たなるシンボルとなる建物」をコンセプトとした当施設は、一般国道5号線沿いの峠下地区に位置しており、同じ並びにはラッキーピエロ峠下総本店が、国道5号線を挟んで向かいには北海道昆布館などの民間観光施設が立地しております。また、函館市と札幌市を結ぶ国道5号線は、人流・物流を支える道路交通の大動脈であり、昼夜にわたり交通量が非常に多いことから、立ち寄りのしやすい当施設は今後もかなりの賑わいが期待されます。

また、峠下地区はJR新函館北斗駅から車で5分程度、現在整備中である北海道縦貫自動車道「七飯IC（仮称）」予定地からも2分程度の地区であることから、交通の要衝としての発展も期待されており、道の駅の開業効果を最大限に生かすための取り組みを進めております。

施設に入りますと、高い天井が特徴のセブンスリビングが皆様をお出迎えし、こちらでは定期的に様々なイベントが開催されております。また、七飯町の食材を楽しむことができるカフェや旅の疲れを癒せる休憩スペースなども完備されており、物販コーナーでは地元の野菜や道南自慢の食材、北海道ならではの定番お土産品なども多数揃えております。他にも、七飯町における農業の歴史を学べるコーナーやお子様と一緒に遊べるキッズスペースもございます。

また、今年4月には「七飯町道の駅エリア民間活力導入事業」として、「THE　DANSHAKU　LOUNGE（男爵ラウンジ）」が開業いたします。

「七飯町道の駅エリア民間活力導入事業」は、道の駅と同一エリア内に民間の活力を導入することで、道の駅と相互に連携し、集客の相乗効果を期待するものであります。

「男爵ラウンジ」は、男爵いも発祥の地である七飯町の魅力を発信しつつ、観光客と地元（エリア）生活者の双方が楽しみながら体感できる「食と文化の交流拠点」を目指し、七飯町とエリアの素材を活かした飲食機能や物販機能、さらに歴史文化の展示機能を備えた商業施設を予定しております。

道の駅「なないろ・ななえ」は、周辺施設や大沼観光などに対して広域にわたり様々な経済的波及効果が期待されることから、今後も町議会や地元経済界、町民の皆様とも連携しながら知恵や工夫を重ね、日本一の道の駅を目指すとともに、当施設を存分に活用しながら、「住みたいまち　住み続けたいまち　七飯町」の魅力や価値を積極的に発信し、地域の活性化に努めていきたいと考えております。

◆観光産業について

当町の観光については、平成29年4月から12月の外国人観光客宿泊数が対前年比14．4％増と大きな伸びを示している一方で、日帰り客を含む全体の観光入込客数では対前年比91．1％と減少しており、北海道新幹線開業効果の反動が見られております。平成31年度においては、北海道新幹線や道の駅の開業効果の持続を図る上で、教育旅行の誘致に向けた国内各地へのプロモーション活動を行うほか、広域観光イベントや体験イベントを支援し、町内への誘客

や周遊・滞在の促進を図ってまいります。

また、北海道新幹線総合車両基地まつりの早期実現をめざし、JR北海道に引き続き要望をするとともに、小学生を対象とした新幹線体験ツアーを実施し、七飯町の食と観光の魅力を発信していきたいと考えております。

また、町内のイベントとしては、毎年2月に大沼国定公園内で開催される「大沼函館雪と氷の祭典」は、昭和39年に「函館・七飯（大沼）・松前・江差」が国際観光ルートとして指定されたことを記念に昭和40年より開始された、道南の冬の一大イベントとなっております。例年、子どもたちに大人気のジャンボ滑り台が用意されるほか、力作ぞろいの雪像群や氷の芸術であるアイスカービング（氷像）などの作品展示が行われます。祭典期間中は、多彩なイベントが繰り広げられ、露店も出店いたします。また、イベントだけではなく、冬の大沼では、白銀の駒ヶ岳と凍るような青空の対比が非常に美しい景色を織りなします。道南を訪れる際には、是非立ち寄っていただければと思います。

七飯ゴンドラ

◆農林水産業、商工業などの振興について

当町の農業については、国内外における様々な要因により見通しのつかない不安な状況下のもと、生産者をはじめとする関係機関のご尽力により、野菜の取り扱い額が3年連続30億円を突破したほか、肉牛やリンゴの「ななみつき」も高価格で推移するなど、市場や消費者からも安全で安心な農畜産物として高評価を得ております。今後も更なる農畜産物のブランド化、安心・安全で高品質な農畜産物の安定生産を図ってまいりたいと考えております。

こうした状況の中、農産物の品質を保持・向上させ、出荷量を安定的に確保することにより農業経営の安定と向上を図るため、平成31年度早期稼働を目指し、「七飯町集出荷予冷施設」を整備しております。

冬の大沼

また、今年は西洋果樹栽培から150年を迎えるに当たり、日本における西洋リンゴ栽培発祥の地である当町において、全国リンゴ研究大会が開催される予定となっており、その準備を進めております。

林業については、各種町有林事業を行うほか、民有林対策においても森林組合と連携しながら、未来につなぐ森づくり事業を活用して進めてまいります。

大沼の内水面漁業については、生態系への悪影響が無いよう、資源の確保と水質の浄化対策に注視しつつ、大沼環境保全対策協議会などと連携のうえ、調査・研究を進めております。

商工業については、町内事業者の大半を占める小規模企業の振興を図るため、昨年3月に「七飯町小規模企業振興基本条例」を制定いたしました。この条例に基づき、商工業経営安定融資保証金補給や利子補給の支援を引き続き実施し、経営の安定と小規模企業の活性化を図ってまいります。

企業・創業支援については、「創業支援バックアップ事業」に取り組むとともに、公益財団法人函館地域産業振興財団と協働し、町内企業の事業活動を支援してまいりたいと考えております。

雇用・勤労者対策については、JR北海道函館新幹線総合車両所をはじめとするJR関連企業が事業所を開設し、現在では全体で約500名の従業員が業務に従事しております。今後は、札幌延伸に向けて、事業規模の拡大による就労人口の増加や新規採用職員の地元雇用が期待されるほか、企業誘致や既存の地場産業の育成を図りながら、雇用の場の確保に努めてまいりたいと考えております。

また、町内の消費拡大と町内企業の活性化のため、冬のイベントとして毎年恒例の「チビッコ雪まつり」の開催を今年も予定しております。親子一緒に雪遊びを楽しむこのイベントは、七飯町商工会青年部や女性部などが中心となり、巨大チューブ滑り台や親子ソリ引きレースなど、寒さを吹き飛ばすような楽しい催しが盛りだくさんに行われます。

◆七飯町のあゆみとこれから

一昨年度、七飯町は町制施行60年、姉妹都市であるアメリカ・マサチューセッツ州コンコード町との姉妹都市提携20年、そしてR・ガルトネルから始まる西洋式農法発祥150年という節目の年を迎えました。

この新たな出発点を迎え、今後も常に時代感覚を研ぎ澄まし、まちの将来を見つめながら、町民の皆様との「参画・協働・自律」のまちづくりを推進していき、夢と希望と可能性に溢れた〝七飯町〟のさらなる実現に向けて全身全霊を傾け、10年後の町制施行70年を迎えたいと考えております。

◆おわりに

私は、災害に強い〝安全・安心なまち〟になった七飯町をより一層「住みたいまち・住み続けたいまち〝七飯町〟」にするため、町の活性化のための新たな政策を実現するとともに、これまでの政策についても再度見直しつつ、町民一人ひとりの「幸福度」が高まるように職員とともに努めてまいります。

北海道道南会の皆様におかれましては、道南へ帰郷された際には、是非道の駅「なないろ　ななえ」や大沼国定公園などへ足を運んでいただき、七飯町の魅力を堪能していただければ幸いに存じます。

最後になりますが、北海道道南会のさらなるご隆盛と、会員の皆様のますますのご活躍とご多幸を心からお祈り申し上げまして、大変簡単ではございますが、以上をもちまして七飯町の最近の動向についてのご紹介とさせていただきます。

はこだて人物誌⑭　モジャイスキー

道南会会員　沢株　正始
幸小学校出身

　函館の西部地区は、戦前から、北洋漁業を中心とした水産業の繁栄もあってにぎわい豊かな街並みが続いていました。私の生家は、その一角で質屋を営んでいました。明治30年代からやっていたようで、蔵のなかには往時をしのばせる古物がいろいろあり、中に帝政ロシア時代の家具や紙幣、ロシア語の本などもあって、一風かわった空間でした。

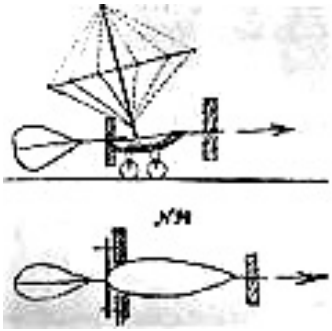
　あとで聞いたのですが、祖父は1917年のロシア革命のときに、当時、函館市内にあったロシア領事館（現在は道南青年の家）の白系ロシア人が夜逃げをしたので、建物ごと買いとり、その一部が戦禍を潜りぬけて保存されていたということです。

　この話が本当かどうか確かめたくなり、当時の函館新聞を探してみたところ、市内大黒町の質商がロシア領事館をまるごと買い取ったという記事を見つけることができました。

　以上は私事の経験ですが、開港前から函館はロシアとの縁が深く、戦前も在留ロシア人が少なくなかったことはよく知られています。インターネットの「はこだて人物誌」にも多くのロシア人が収録されています。今回はそこには含まれておりませんが、軍人・画家・発明家と、多彩な分野で歴史に名を残した人物をとり上げてみましょう。

アレクサンドル・モジャイスキー

　アレクサンドル・フョードロビッチ・モジャイスキー（1825～90）は、ロシアでは小学生でも知っているというほどの有名人です。いくつかの肩書を持っていますが、もっとも有名なのは、アメリカのライト兄弟より20年も前に飛行機を発明したことです。当時、ロシア政府は航空機による敵艦攻撃を構想し、海軍軍人のモジャイスキーが計画書を立案、ロシア海軍の最高機密として航空機開発が推進されたものの、結局、当時のロシアの工業力では不可能であることがわかり、計画は頓挫しました。


モジャイスキーモデルの飛行機

　ところが、彼は海軍を退官したあと、自費で航空機開発を計画、約4年の間、開発実験を重ねて、1884年についに実物の航空機による飛行実験を行うにいたったのです。しかし、実験の結果は滑走台から30メートルほどジャンプしたあと右に傾いて、機体は大破しました。したがってこの結果は、ロシアでは世界初の飛行機と誇っていますが、一般的には飛行とは認識されてはいません。ちなみに、モスクワ航空博物館にはこの時の機体の模型が展示されています。

モジャイスキーの飛行機
（ソ連の 1974 年の切手）

　ところモジャイスキーと日本、そして函館との間にはどんな関係があったのでしょうか。1853年から54年にかけて、海軍中尉だった彼は、開国交渉を目的としたプチャーチン率いる日本遠艦隊の旗艦ディアナ号に乗り組み、バルト海のクロンシュタットを出航、南アフリカ最南端のホーン岬を経て、54年10月に函館に投錨します。そしてここから突然、画家としてのモジャイスキーの本領が発揮されていくのです。

　函館に寄港するまで13年以上もの海上生活をすごし全く絵筆もとれなかった彼は、上陸するやいなや函館の風景や人々の生活の姿を夢中で描きつづけました。滞在期間はわずか8日間でしたが、何枚かの見事な絵が残されています。最初に描いたのが函館港に停泊中のディアナ号で、次に「函館の寺の境内」と題した絵を描き、これを銀板写真に収めました。そして帰国してからそれをもとに水彩画を仕上げています。

函館の寺の境内

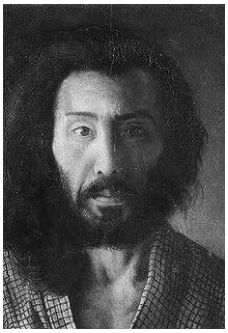
　その当時、ロシアのアカデミー会員が出していた『ロシア美術手帖』という雑誌に彼は日本にいたときの印象を書き残しており、これらの絵についてもくわしい説明をつけています。ここで紹介するの

小さいさむらい

はその一部にすぎませんが、函館市内のどこかにありそうなたたずまいのお寺です。目下のところ、現存するお寺のなかに特定できるものはありませんでした。

もうひとつは「小さいさむらい」と題された絵で、解説者の言葉を借りれば、モジャイスキーの日本の人びとへの親しみと信頼の情に満ちあふれた絵といえるでしょう。

彼の生存中にこの雑誌に掲載された絵はこの2点だけでしたが、その他の絵も含め、すべての作品はレニングラードの中央海軍博物館に保存されているそうです。そして彼の画風を継いだ日本人がいました。当時から天才写真家・洋画家と言われ、函館の写真史の先駆者・横山松三郎です。彼は当時函館に来たロシアの初代領事ゴシュケヴィッチから写真の手ほどきを受けており、美学の世界においても日露のつながりをあらためて感じさせられます。

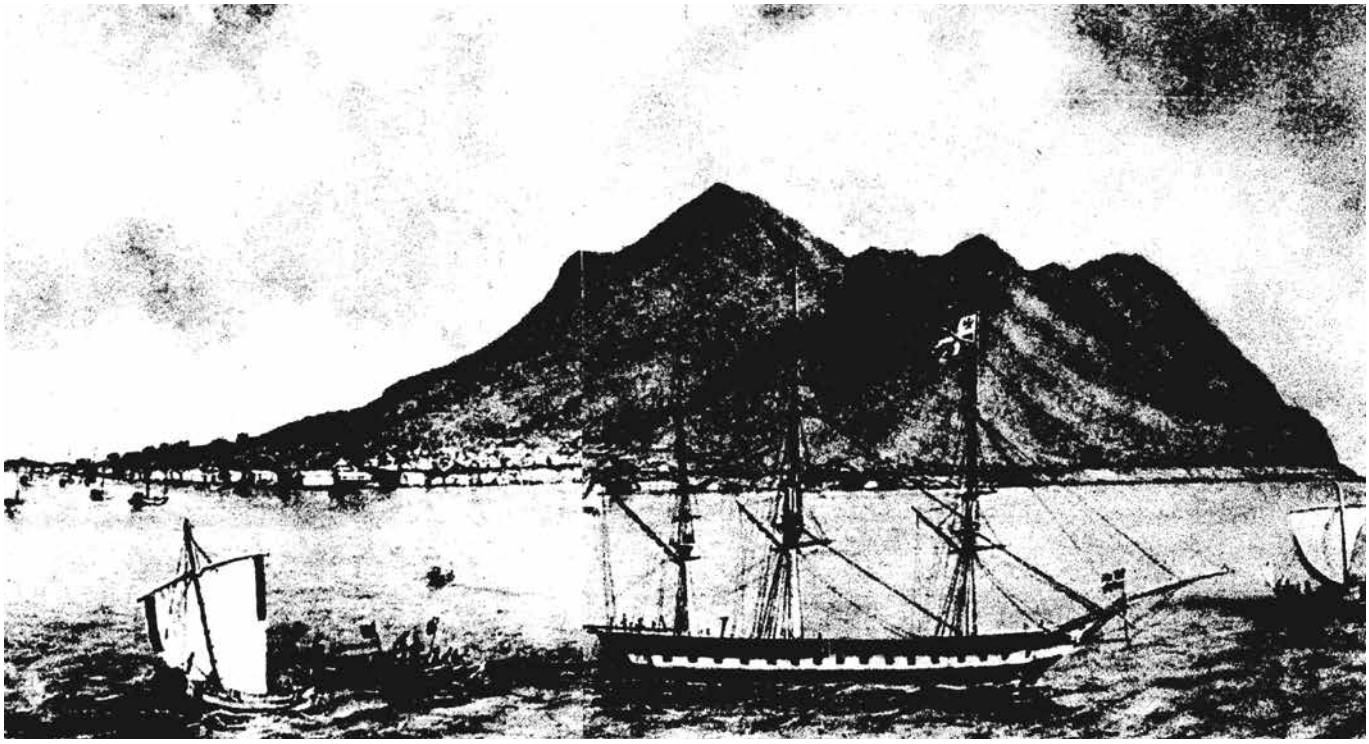


函館の写真史の先駆者・横山松三郎

このあとプチャーチン一行は再度の開国交渉のため大阪を経て下田に向かうものの、たまたま発生した安政大地震による津波でディアナ号は大破、そして修理のために伊豆の戸田村に向う際に強い風波により浸水し、航行不能となり、最終的には沈没してしまいます。この一連の出来事、そして日本人の対応についての彼の好印象などは、多くの本で伝えられています。

ところでモジャイスキーが描いた絵は未発見のものも含め、まだまだありそうで、ひょっとしたら函館市内のどこかに眠っているかもしれません。もし発見されることがあれば、貴重な資料として注目されると同時に、これからの日本とロシアの関係に大きな意味を与えることになるかもしれません。

〔この文章を書くにあたって多くの書籍を参照しましたが、とくに珍しい資料として次の雑誌を挙げておきます。『今日のソ連邦』No.10、1964年5月15日〕



函館港に停泊中のフリゲート艦〝ティアナ号〟

北海道道南会
平成 31 年度新年総会・懇親会のご案内

1. 日　　時　**平成 31 年 2 月 2 日（土）**
正午　受付開始
12 時 30 分　開会　14 時 30 分　閉会

2. 場　　所　**ホテルラングウッド**
東京都荒川区東日暮里 5-50-5　　TEL　03-3803-1234

3. 会　　費　**当日会費 8,000 円　年会費 3,000 円**

4. 総会次第
※会長挨拶　　※賀詞交換、懇談
※来賓祝辞　　※新入会員紹介
※会務、会計報告　　※福　引　　など
※役員改選
※祝　辞

北海道道南会会員プロフィール

大竹　覚

道南会の皆様、あけましておめでとうございます。今年で71歳。港小に入学し、駒場小を卒業後、深堀中に。高専入学。昭和43年卒業。内地の会社に就職。その後、49年間厚生年金保険料を払い続け、今は年金生活者です。昨年、初孫が生まれ、そちらの世話をするのも楽しみに。昨年5月に、新宿の中華店で、函館工業の旗を立てた同窓会に偶然遭遇し、本間和吉さんに挨拶したのが縁で道南会を紹介され参加することに。今後ともよろしくお願いします。

和田　史郎

昭和48年生まれ。千代ケ岱小学校，的場中学校，函館ラ・サール高校を卒業しました。平成5年一橋大学への入学を機に上京。平成9年にサッポロビール（株）に入社後は，名古屋，静岡，東京，福岡と転勤し、40歳で退職。一橋大学法科大学院に入学し，現在は弁護士をしています。道南会では，諸先輩方から函館の歴史や近況などのお話しを聞けて，とても楽しく有意義な時間を過ごしております。今後ともよろしくお願いします。

あけましておめでとうございます

朝倉　敏夫　阿部　勉　石戸　六男
泉　龍夫　今井　雅子　岡本　信三
小山　光　笠川　雅彦　金子　忠雄
川瀬　俊吉　川守田礼子　神山　茂郎
小島　幸子　小助川昭一　小谷　泰三
小林智恵子　小山　和彦　郷内　繁
酒井　哲美　佐々木俊克　澤井　隆
沢株　尚子　沢株　正始　三盃　善信
島田　瑞子　白川　正広　新谷　義克
末永　昌子　菅原　大作　須藤　珠実
高橋　厚子　高橋　順吉　続　薫
富岡　信夫　鳥本　玲子　中村　隆俊
納代　鉄也　新山　春一　沼崎　貞良
沼崎　茂子　根来美和子　濱　光徳
比嘉　裕子　檜森　兄元　福地　史人
古井　勝春　本間　和吉　松田　州平
松田　昇　道下　佳拓　薬袋　泰
南谷　光一　三村　寿雄　森本　貞子
山田　克明　山田トミ子　山本　久子
山本　明博　山本眞理子　横井　透
和田　史郎

「東京北斗会」総会・懇親会

道南会会長　薬袋　泰

「第24回東京北斗会定期総会・懇親会」は平成30年10月20日（土）アルカディア市ヶ谷で午後1時より来賓・会員及び関係者77名が出席して盛大に開催されました。

総会は佐藤金也会長の挨拶の後、29年度活動報告並びに決算報告、の説明があり、審議が行われ、役員紹介の後、米田事務局長の閉会の言葉で総会が終了。懇親会は、宮崎事務局員の開会の言葉に続き、司会者より来賓の方々が紹介され、代表として新しく市長に就任された池田達雄市長は、高谷前市長と7年間共に進めてきた北斗市の行政を更に進めて行く。今年は災害の多い年であったが、特に「北海道胆振東部地震」による30時間の停電は不安な時間であった。

今年は、サッポロビールのワイン工場の設置決定や、子供達の学力テストの向上、吹奏楽では上磯中学が全国大会に出場し3年連続優勝するなど子供達の活躍が目覚ましかった。新幹線開業を機に街の様子も変わりつつあり、更に整備を進め活性化を推進して行く等々、北斗市の現況を報告された。

坂見秀幸新議長の挨拶に続いて、北海道ふるさと連合会森隆信顧問のご発声で乾杯、祝宴に移った。

新入会員8名が紹介され、各テーブルではそれぞれ故郷の話などで盛り上がり、舞台では余興、アトラクション、カラオケ等々で会場は更に賑々しくなる中、お待ちかねのお楽しみ抽選会に移った。郷土の色々な特産品などが当たり、会場は些か興奮気味で大賑わい。楽しい内に閉会の時間となり、特産品のお米やお土産を手に、またの再会を楽しみに散会した。

顧問・相談役会

道南会常任幹事　菅原　大作

11月6日（火）午前11時30分より、東京・銀座「梅の花」で、松田昇・郷内繁・沢株正始・南谷光一・石戸六男顧問、沼崎貞良相談役、新山春一会計監査、薬袋泰会長、島田瑞子・三村寿雄副会長など16人が出席して行われました。

会では、最初に薬袋会長が「2018年度の行事や幹事会の開催、会報の発行」などについて報告しました。

この後、函館市の人口減、新規入会者の増加対策と定着など様々な話題について提案と討議が行われました。また、現在、83歳以上の会員は年会費が免除されているが、会員全体の高齢化が進み、年々免除者が増加しており、財政状態が厳しくなってきている。これを改善するために、会則を改定して、全員に年会費をご負担いただくように年次総会で提案することも必要との意見が出されていました。

会員の今井雅子さんが個展

会員で、精力的な制作活動を行っている画家の今井雅子さんが、12月1日から8日まで、東京・京橋の画廊・ギャルリー・コパンダールで、個展を開きました。

今回の個展では、はがきサイズから20号までの作品27点を出品。新しい試みとして、タピストリー仕立ての作品も出展。今後は、大きなサイズの作品にも取り組みたいと、意欲を燃やしています。

「入舟の夕日」

同窓会の活動状況

◆常盤小学校同窓会
10月20日（土）
東海大学校友会
参加者　9人

◆函館工業高校同窓会
10月21日（日）
ホテルラングウッド
参加者　75人

◆幸小学校同窓会
10月27日（土）
銀座アスターベルシーヌ
竹芝店
参加者　9人

◆白楊ケ丘同窓会東京支部
第42回親睦大会
（函館市中部高校同窓会）
10月22日（土）
グランドアーク半蔵門
参加者　182人

◆東京千代ケ岱第12回総会
（函館市立千代岱小学校同窓会）
11月24日（土）
古寿茂・兜町店
参加者　12人

◆遺愛女子高校同窓会
12月7日（金）
アイビーホール青学会館
参加者　146人

平成30年度 夏季懇親会

今年の北海道道南会夏季懇親会は、9月1日（土）正午より、東京・荒川区東日暮里のホテルラングウッド・鳳凰の間で、来賓・会員・ゲスト87人が出席して行われました。

会は、島田瑞子副会長の司会で始められ、最初に薬袋泰会長が「今年は、梅雨が短く、いきなり猛暑が襲来。その後も暑さが続いて、体調を崩しがちでしたが、皆さん元気にご参集いただいて大変嬉しく思う。夏季懇親会では、新年総会と違い特別な行事はない。今日は皆さんお互いに懇親を深めると共に大いに楽しんでいただきたい」と挨拶した。

続いて、新入会員として参加された6人の方々を紹介。皆さんには自己紹介として出身小学校などを述べていただきました。

乾杯の発声は、松田昇顧問が「プロ野球読売巨人軍の役員をしているが、今年は振るわず、皆さんから今年はどうなったのかと聞かれて、その言い訳に追われている。今は新旧交代期で大変難しい時期。来年以降に期待している」と述べ、「道南会の一層の発展とご参加の皆さんのご健勝を祈念して」との音頭で乾杯し、開宴しました。

会場内には、函館市と七飯町大沼の観光ポスターが多数貼られて雰囲気を盛り上げていました。また、七飯町大沼会・会長の川瀬俊吉幹事は、一般から応募された大沼の四季を彩る風景写真で構成された大沼観光協会が作成する来年のカレンダーの予約申込を受付中とPRされていました。

会員の画家・今井雅子さんは、「はこだて旅情」と題した油彩画の絵はがき（5枚セット・1,000円）が、東京・京橋のコンビニ・ローソン内の函館市アンテナショップで販売されるようになったと告知されていました。

会員の嶋村悦子さんのお嬢さんは、〝飛鳥とも美〟の芸名で歌手活動をされていますが、彼女の最新曲「きずな道」がバックグラウンドミュージックとして流されていました。

そして、今年のアトラクションは、〝道南会専属〟を自認する歌手・池田さなえさんが、持ち歌の「函館夜景」と「函館ステップ」を、さらにデビュー曲の「忘れ方を教えて」をメドレーで熱唱。会場の皆さんから大きな拍手を受けていました。

会場内の各所では、懐かしい函館弁での会話が飛び交い、和やかな雰囲気が漂う中、懇親が続けられていました。

懇親会の半ば過ぎ、皆さんで会場一杯に大きな輪を作って、昔懐かしい「函館港踊り」をアンコールの声に乗せられて4回も踊って、軽い腹ごなしの運動をしました。そして、道南会の応援歌〝青春時代〟の替え歌「函館時代」を松田州平さんのリードにより皆さんで合唱しました。

さらに、例年道南会のエールの音頭を取られていた高橋順吉さんが、今年から川瀬幹事にリーダーを譲ると宣言。川瀬幹事の音頭で、皆さんでエールを送りました。

最後に、三村寿雄副会長が、31年2月2日に開催される道南

会新年総会・懇親会での再会を約束する閉会の言葉を述べた後、皆さんで三本締めを行って終了しました。

この日のご参加の皆さんには、お土産としてサッポロビール提供の「麦とホップ」が、そして函館市や大沼の観光パンフレット、函館市のふるさと納税の案内書、今井雅子さんの個展（30年12月1日～8日・ギャルリー・コパンダール・中央区京橋）の案内などが配られました。

平成30年度 夏季懇親会出席者

【参加者】

青木幹則、朝倉敏夫、阿部勉、池田さなえ、石戸六男、泉龍夫、伊藤幸男、今井雅子、大竹覚、岡本信三、奥野政博、折田信一、笠川豊彦、笠川雅彦、勝木重蔵、金子忠雄、川瀬俊吉、川守田礼子、菊池紀邦、工藤正昭、小助川昭一、小林智恵子、小森良彦、郷内繁、齋藤善子、酒井哲美、佐藤昇、沢株正始、汐谷進、島田瑞子、嶋村悦子、白石一恵、新谷義克、神れい子、末永昌子、菅原大作、杉澤順一、鈴木栄子、須藤珠実、高井眞人、高橋順吉、谷口定巳、千歳芳光、土橋道子、富岡信夫、鳥本玲子、中川和彦、中村崇、納代鉄也、楢木久澄、成田きよえ、新山春一、沼崎貞良、沼崎茂子、野口晴雄、濱光則、林欽也、比嘉裕子、檜森兄元、福地史人、古井勝春、本間和吉、松田州平、松田昇、水木昭弘、三橋智行、薬袋泰、南谷光一、三村寿雄、森本貞子、八鍬武、柳下五百子、安原秀樹、山木和子、山下弘治、山田克明、山田トミ子、山手章、山本久子、山本眞理子、吉岡孝行、吉野俊郎、吉本有佑、和田史郎

【ゲスト】

佐々木美智子

新入会員紹介

（　）内は出身小学校

◆大竹　覚（函館市立駒場小）
本間和吉常任幹事の紹介。

◆斉藤　泰（函館市立弥生小）
石戸六男顧問の紹介。

◆高井眞人（函館市立陵北高）
島田瑞子副会長の紹介。

◆林　欽弥（函館市立巴小）
楢木久澄さんの紹介。

◆山本明博
山本眞理子さんのご主人

◆和田史郎
（函館市立千代ケ岱小）
ホームページを見て

訃報

菅原　靖さん
平成29年10月2日　死去
85歳

村上光昭さん
平成30年5月22日　死去

小板鉄雄さん
平成30年11月27日　死去
84歳

謹んでご冥福をお祈りします。

北海道道南会のホームページ

http://hokkaido-dounankai.com/

道南会では、ホームページを開設して、50年以上に及ぶ道南会の歴史や会則、入会のお勧め、新年総会・懇親会や夏季懇親会の開催案内、月例行事のご案内、機関誌「会報・道南」の一覧などを掲載して、会の情報を随時お知らせしています。ホームページについて、info@hokkaido-dounankai.com　へ、ご意見、ご要望などをお寄せくださいますようお願いいたします。

道南会行事報告

☆北海道道南会ゴルフコンペ

7月6日（金）「取手桜が丘ゴルフクラブ」にて開催されました。

今回は薬袋会長・三村・安田・森・大久保・竹澤・古谷女史・函館より佐々木俊克氏の8名と少し寂しいコンペとなりました。

当日は雨中のラウンドとなりましたが、時折起こるナイスショット！の声も飛び交う和気あいあいの1日を過ごしました。

優勝はベスグロ（86）で回った安田康次さん、準優勝は竹澤秀明さん、3位薬袋泰会長でした。

なお、函館より参加の佐々木俊克さんより函館産がごめ昆布使用のとろろ昆布の差し入れがあり参加者の皆さんが喜んでいました。

次回のコンペは少なくとも4組16名を目指したいと思います。ぜひゴルフ愛好者の皆様の多数のご参加をお待ち致しします。

☆真夏の暑気払いの会

今年の暑気払いの会は、7月21日（土）正午から昨年と同じ、港区東新橋の旧新橋停車場跡地のビヤダインニングライオン汐留店で会員29人が参加して行われました。ここの建物は、1872（明治5）年10月14日に開業した日本最初の鉄道ターミナル・新橋停車場の駅舎の外観を、当時と同じ位置に、できるだけ忠実に再現したもので、2階にある宴会場は、内外装とも昔を感じさせる落ち着いた雰囲気の会場でした。

最初に薬袋会長が、「連日猛暑が続いておりますが皆さん元気でお集まりいただいた。本日は、美味しいビールと料理を楽しみたい」とあいさつ。早速ビールで乾杯し、開宴しました。ウインナーソーセージやピザなどのオードブル・コースをお酒の肴に和気藹々の楽しい雰囲気の中で、食事と会話を楽しみました。皆さんの話題の中心は、夏休みの過ごし方のこと。

話題は尽きませんでしたが、午後3時25分過ぎに記念撮影をしていったん散会としましたが、引き続き同じ会場で延長しての宴会が行われました。

なお、小助川昭一さんが、函館・谷地頭電停前のお菓子屋「市中屋」から取り寄せていただいた〝べこ餅〟をお土産として皆さんに配布されました。

☆ニューオリンズジャズフェスティバル

8月29日(水)、浅草公会堂で、ジャズの本場・ニューオリンズより来日したトーマス・フィッシャーとニューオリンズジャズオールスターズ（8人）と、日本の外山喜雄とデキシーセインツの演奏会が開催されました。今年で32年間連続の開催です。このニューオリンズジャズフェスティバルは、協同組合浅草おかみさん会が主催して毎年夏のこの時期に行われています。

今年は、道南会会員22人が参加され、皆さん本場の演奏に満足されておりました。

なお、ニューオリンズでは、今回来日されたメンバーの各々がリーダーのバンドマスターとして演奏活動をされており、日本公演のこの時のみ編成されて来日。素晴らしい演奏を聴くことができます。

来年も公演の予定がありますので、是非ご参加ください。

☆「30年度夏季懇親会」

（別掲）

9月1日（土）午後0時開催

荒川区東日暮里

ホテルラングウッド

編集後記

◎今年の夏の猛暑は、30℃以上の真夏日や、さらに35℃以上の猛暑日の多さなどから全国各地の観測点で「観測史上初めて」といった記録をもたらしました。そして、今年は暖冬かとも思われましたが、12月に入ってから、いきなり真冬の寒さに襲われました。寒さに慣れないためか、風邪を引かれている方を多く見かけます。ことに函館などでは一晩で20㎝以上の積雪があったと聞いています。

◎この先の寒さがどうなるか分かりませんが、雪国では適度の積雪があり、冬の終わりから春を迎えるにあたって穏やかな季節の変化を迎えたいと思っています。

◎平成の31年間は間もなく終わり、新しい年号の元での生活が始まります。来たるべき年は落ち着きのある穏やかな年が過ごせますように期待したいものです。

会報「道南」
31年・新年号・通巻69号
発　行　平成31年1月1日
発行所　北海道道南会事務局
茨城県取手市西
1-6-C-907
薬袋　気付
印刷所　富士製版印刷㈱
世田谷区下馬4-17-17